

2024年1月18日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概要

| | |
|--------|---------------------|
| 歩行名称 | 東北東 |
| 歩行区間詳細 | スタート地点: JR 常磐線新地駅 |
| | ゴール地点: JR 東北本線松島海岸駅 |
| 実施期間 | 2023年11月6日～9日 |
| 全歩行距離 | 96km |

2. メンバー表

| No. | 役割・分担 | 氏名 | 年齢 | 歩行日数 | 備考 |
|-----|-------|------|----|------|----|
| 1 | リーダー | 横山泰一 | 78 | 4日 | |
| 2 | | 横山弥生 | 76 | 4日 | |
| 3 | | 蔵田道子 | 75 | 3日 | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

3. 歩行の概要

| | 月日 | 出発地～到着地 | 歩行距離 | 歩行参加者 | 宿泊先 |
|---|------|--------------------|------|----------------|------------------------------|
| 1 | 11/6 | 新地駅～吉田浜防災公園 | 15km | 横山泰一、弥生 | ルートイン名取 岩沼インター |
| 2 | 11/7 | 吉田浜防災公園～名取トレイルセンター | 29km | 横山泰一、弥生、 蔵田 | 同上 |
| 3 | 11/8 | 名取トレイルセンター～七ヶ浜町花渚浜 | 31km | 同上 | ドームイン EXPRESS 仙台 シーサイド |
| 4 | 11/9 | 七ヶ浜町花渚浜～松島駅 | 21km | 同上 | |

4. 参加費・費用

①参加費 参加者述べ日数 11日 参加費合計 1,100円

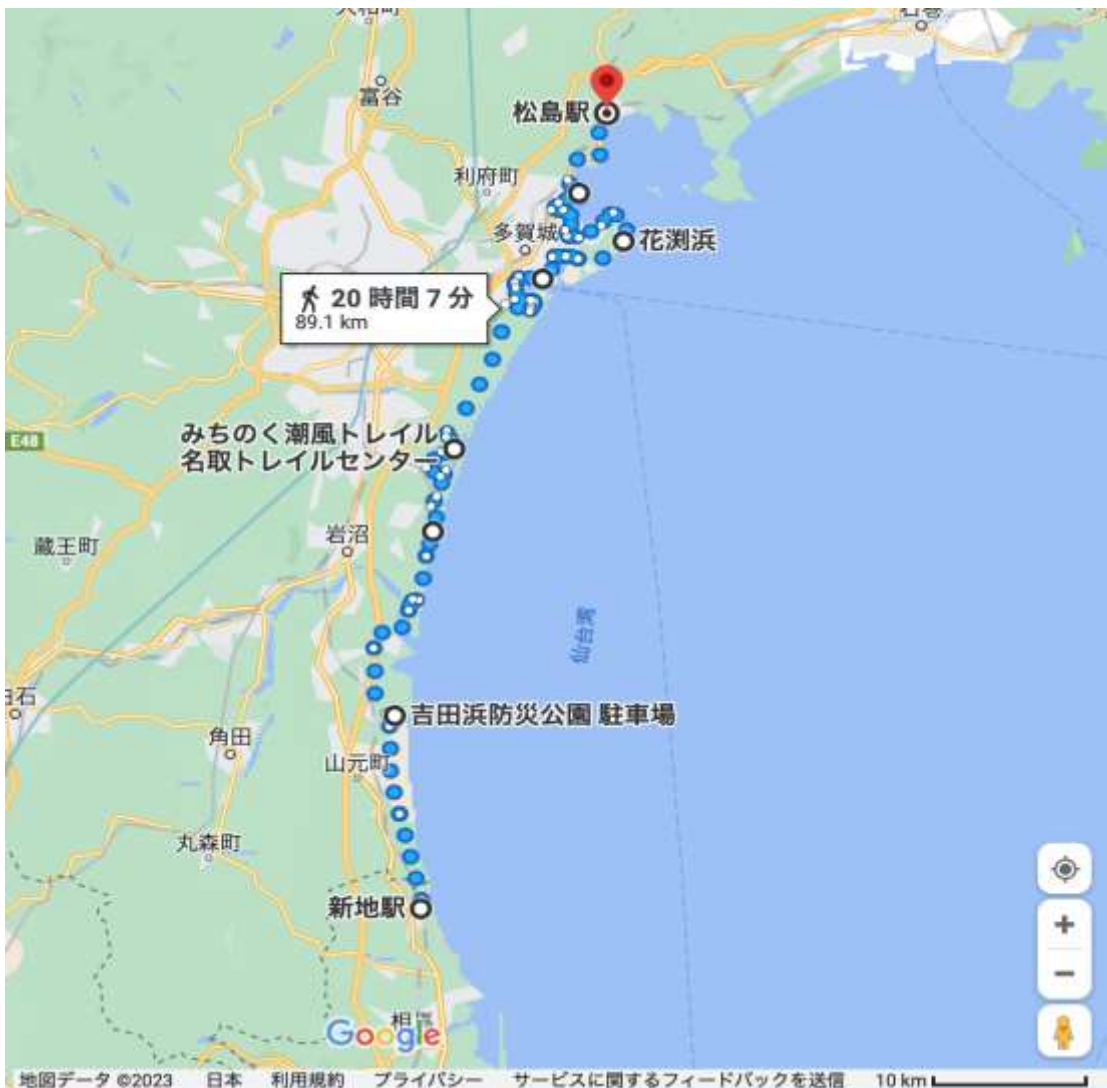
②費用(横山泰一の場合)

| | | |
|-------|--------------------------|-------------------|
| 交通費 | ガソリン代(170円/Lで計算) 60L使用 | 10,200円 |
| | 高速道路料金 往 7,890円 復 9,260円 | 合計 17,150円 |
| | | 交通費合計 27,350円(2人) |
| 交通費合計 | 一人当り | 13,675円 |
| 宿泊費 | 1,2泊目 ルートイン名取岩沼インター | 2泊 14,400円 |
| | 3泊目 ドーミンEXPRES 仙台シーサイ | 6,400円 |
| 宿泊費合計 | | 20,800円 |
| 飲食費合計 | | 10,000円 |
| 費用総合計 | | 44,475円 |

5. 歩行の詳細

福島県の海岸線の旅に続いて、今回から宮城県の海岸線を北上する。宮城県の海岸線も東日本大震災により甚大な被害を受けた地域で、どのように復興したかを見ながら歩く。2班構成で車組は先行して中継点に車を置き、歩行を開始する。歩行組は中継点まで歩き、スペアキーで車を次の中継点へ移動させ、そこから歩行を開始する。これを繰り返してゴールの松島海岸駅まで歩くこととした。

歩行地図



初日:

横山泰一・弥生は車で常磐線新地駅へ行き、福島歩行で歩いた県道38号線と釣師浜漁港との交差点から弥生は車で、泰一は徒歩でそれぞれ最初の中継地点である山元町震災遺構中浜小学校へ向かった。



スタート地点: 写真左奥が相馬方面、左手前が釣師浜方面

【新地駅～山元町震災遺構中浜小学校 5km 歩行者: 泰一】

11:12 歩き始めると目の前に釣師浜防災緑地公園が広がった。釣師地区は東日本大震災により甚大な被害を受けた地域で、園内には10mの避難丘、慰霊碑、震災モニュメントが建設されている。

11:16 釣師浜防災緑地公園



(左) 釣師浜防災緑地公園入口
(右) 釣師浜海水浴場と漁港

11:24 堤防上に上がる。釣師漁港と海水浴場が綺麗に整備されている。その堤防上を北上した。よく晴れた日で、太平洋を眺めながら気持ち良く歩いた。



磯山展望緑地から新地町の共同火力を望む

11:50 磯山展望緑地着 ここで堤防が途切れていたため市道を歩く。

11:56 宮城県との県境を過ぎて、再び堤防上を歩く。

12:30 堤防を降りて中浜小学校へ向かう。途中水路に阻まれ大きく迂回した。

12:45 山元町震災遺構中浜小学校到着。月曜日は休館日で中へは入れず、昼食は車の中で済ませた。この中浜小学校は東日本大震災による津波から屋上に避難した児童と教職員ら90人の命を守った。津波の対策が事前に施された建物であったことと、日頃避難訓練を行っていたことも指摘されている。



中浜小学校遠望

13:10 車で次の中継地点・笠野避難丘公園へ向かった。（泰一記）

【山元町震災遺構中浜小学校～笠野避難丘公園 5km 歩行者:弥生】

13:00 震災遺構中浜小学校出発

13:07 防潮堤に出る。防潮堤の上を浜を見ながら歩く。強風が吹いている。

13:17 防潮堤から降り、川沿いの道を内陸へ。

13:32 県道 32 号線を行く。橋を渡ったところから下道におり、亘理方向への道を行く。

13:51 途中、自動車学校の津波で犠牲になった職員の震災慰霊碑がある。海岸線より 750m の地とある。国土地理院の地道路右手方向に津波で流された住宅街の地図のままだった。現在はその辺り海側には牧場が広がっているのが遠望できる、道の両側荒地や、廃車等がうずたかく積まれた箇所もあった。津波跡の名残りだろうか。セイタカアワダチソウも健在。



荒地となっている自動車学校の一角にある慰霊碑

14:23 八重垣神社に到着。少し先には川があり、おそらくその川が氾濫し、多くの犠牲者が出たのではないだろうか。たくさんのお墓が見える。

14:27 笠野避難丘公園着（弥生記）



笠野避難丘公園

【笠野避難丘公園～吉田浜防災公園駐車場 5km 歩行者:泰一】

- 13:18 車で笠野避難丘公園に到着。避難丘に登る。
- 13:32 堤防に向かって歩き始める。
- 13:40 堤防上を歩く。堤防の内側は防災林、海岸には波消しブロックが積まれている。
- 14:40 牛橋水門
- 15:00 吉田浜到着 車で到着していた弥生を呼んで浜に降りた。「鳴き砂」で知られる綺麗な浜だが東日本大震災で瓦礫が打ち上げられ、鳴らなくなってしまっていた。ボランティアによる浜の清掃で「鳴き砂」が戻ったと言われているが、踏みしめても鳴らなかった。



牛橋水門からの吉田浜



吉田浜防災公園

15:30 吉田浜防災公園駐車場

ここから車で本日の宿、ルートイン名取岩沼インターへ向かい、チェックイン。すぐに JR 岩沼駅に蔵田さんを迎えに行き、ホテルへ戻った。(泰一記)

2日目

朝から雨が降っていた。歩くには少し強い雨だったのでホテルを予定通り 8:30 に出て、車の中やコンビニ駐車場で様子を見ながら吉田浜防災公園へ移動した。

9:50 雨が上がったので車班と歩行班に2班に分かれて、中継地点で車の受け渡しをしながら2日目のゴール名取トレイルセンターを目指した。



堤防下の駐車場から出発

【吉田浜防災公園～鳥の海公園 8km 歩行者:弥生、蔵田】

10:00 防潮堤の上に出る。小雨ではあるが風が強く、海を見つつも、あまり快適とはいえない。

途中、雲の合間から青空が見えるようになる。防潮堤から内陸部に少し入ったところに、地図では長い公園となっている避難丘が防潮堤に沿って並んでいる。正面には、小見川から仙台空港へ降り立つ飛行機が、時に曇天の景色に色を添えてくれる。

鳥の海に近くなると、天気も回復し、サーフィン姿の人もいた。

10:55 堤防を先端までは行かず、途中から鳥海を回るために、左折。そして堤防を降りる。堤防沿いの道をいく。道の右側は堤防、左側は川となっている。川のむこう(南)は津波後の手付かずの自然林がある。その中には、多分津波の名残の松が生えている。用水路が何本か南がわから川に入り込んでいるが、それほど時間を経ていないように見える堰がある。小さな用水にはふさわしくない大きなものだ。これも津波対策？

11:35 3本目の用水路が入る堰で初めての休みを取る。何羽かのカモが用水の上を泳ぎ、飛び立ち、水面に着水するのを見ながら、のんびりする。



(左) 川と森 (右) 鴨が泳ぐ用水路

11:45 出発。次第に、通る車も多くなる。亘理承水路の水門横の橋を渡り、先ほど歩いて対岸に至る。堤防側を歩きながら、鳥海の中にある島に渡る道を探すがなし。どうやら、地図の上だけか。津波は様々な景色を変えているのだろう。堤防に囲まれた鳥の海は、3.11 以前には無かった景色なのではないか、などと考えながら、歩く。左手には、新たにできた住宅団地が見られる。津波の跡地での建設なのだろう。

12:35 鳥の海公園の駐車場に到着。



鳥海荒浜漁港

【鳥の海公園～千年希望の丘長谷釜公園 9km 歩行者:泰一】

10:25 鳥の海公園に車で到着した。駐車場に車を置いて歩行を開始し、すぐに堤防へ上がる。

10:50 浪切地蔵尊 堤防から降りて見学。



浪切地蔵尊 江戸時代に現在の福島県二本松市において「万人子守地蔵尊」として祀られていた地蔵尊が、ある時の大雨で阿武隈川に流され河口の荒浜に流れ着き「波切地蔵尊」として祀られたのが始まりだそうだ。

再び堤防上を遡り阿武隈川を県道 10 号に出て渡る。県道 10 号は交通量が多く、横断歩道もないので橋のどちら側に歩道があるかわからない。堤防から県道へ出るルートが分かり難く、橋を潜って上流側に出たが、反対だった。仕方なく戻って草に覆われた県道への登り口を見つけ、無事に橋の歩道に出られた。



阿武隈大橋



大橋から河口方向の眺め

11:20 亘理大橋 阿武隈川を渡る。

11:40 五間堀川を渡ると東日本大震災メモリアルパーク・千年希望の丘・新浜公園に出た。

「千年希望の丘」は岩沼市の沿岸 10km にわたり、東日本大震災による津波により人が住めなくなった土地を活用して6つの公園に 14 基の避難丘が整備されている。



五間川



千年希望の丘・新浜公園入口



防潮堤と納屋海岸

11:48 堤防上を歩く。堤防の内側は防災林、その奥に阿武隈山地が広がる。

12:15 堤防脇には海浜植物が植えられている。黒い実を付けた肉厚の葉も持ったマルバシャリンバイやト

ベラなど震災に耐えた堤防に自生していた個体を移植して育てているそうです。防災林や防災緑地の造成に使用されている樹種はクロマツ以外にタブノキ、スダジイ、アカガシなどの広葉樹が使われている。クロマツと広葉樹が混交する森の防潮堤計画が進行中。数十年後には必ず来る津波に200m幅の森の帯ができることを願う。

13:06 千年希望の丘長谷釜公園に到着したが10号丘と11号丘を間違えて(現地の案内図の誤り)往復してしまっただ。公園内の長谷釜明神社には6mの津波にも耐えた奇跡の大イチョウがある。樹高18mとされ、漁師が海上での目印とされていたという。

13:34 長谷釜公園駐車場で車組と合流して昼食。

14:00 昼食後運転を交代し、車で次の中継地点である千年希望の丘1号丘へ向かう。(泰一記)



11号丘



長谷釜神社と大銀杏



車組と合流

【千年希望の丘長谷釜公園～千年希望の丘1号丘 6km 歩行者:弥生、蔵田】

14:00 千年希望の丘長谷釜公園を出発。緑地帯を通り、再び、防潮堤の上を歩く。波はかなりあるが、浜には釣り人もいる。防潮堤は広い。内陸側には、松が植えられている。防潮堤を下る階段はあまり多くない。松林帯の向こうに目的地の丘を見つけて、おおよその検討で、防潮堤を降りる道を見つけ、道を内陸に急ぐ。



15:30 1号丘到着。選択したルートは正解だった。自動車が置いてあるのを発見して、ゆっくりと丘を登る。散策に来ている人もいて、それなりに広い公園になっている。眺めの中心は飛行場。ここにも家々があったようで、全て公園と防潮林、そして避難丘になっているのである。掲示板のみが、以前の状況を語っている。

16:00 車で名取トレイルセンターへ向かう。

16:10 名取トレイルセンターに到着。センターが休館日で中には入れなかった。車の中で泰一の到着を待つ。(弥生記)



名取トレイルセンター

【千年希望の丘1号丘～名取トレイルセンター 7.5km 歩行者:泰一】

14:30 千年希望の丘1号丘に車で到着。

14:50 1号丘に登ってから本日のゴール名取トレイルセンターへ向かって歩き出す。

15:06 堤防上から眺める名取市下増田の海岸が美しい。仙台空港へ着陸する飛行機が大きく見えて面白いので写真を撮りながら歩く。堤防上は風が強かった。



仙台空港に着陸する旅客機

15:49 風が強いので堤防から降りて道路への道を歩くことにした。イチゴのビニールハウスの間を通りながら市道へ出た。東北一のいちごの生産地でシーズンに來れば良かったのにと考えた。

16:25 八間堀川を渡る。

16:37 名取市墓地公園

17:02 名取トレイルセンター到着。先に到着していた車組を1時間待たせてしまった。名取トレイルセンターを見学してもらうつもりだったが毎週火曜日は休館日でした。事前調査の不備を痛感した。そのまま車でルートイン名取岩沼インターへ向かい、宿泊した。(泰一記)

3日目

天気は晴れ。8時30分にホテルを出発し、車で名取トレイルセンターへ移動した。名取トレイルセンターは青森県八戸市から福島県相馬市までの東北太平洋岸を南北1,000kmのみちのく潮風トレイルを歩く上で必要な情報等を発信する施設。20分程度見学し、今後歩く可能性のある資料を収集した。

【名取トレイルセンター～震災遺構仙台市立荒浜小学校 8.5km 歩行者:泰一】

9:00 泰一は名取トレイルセンターを出発して震災メモリアル公園を通って名取川河口に出てから堤防上を遡る。



閑上の船着き場



名取川の堤防・遠景は閑上大橋

9:50 名取市震災復興伝承館見学



伝承館(左写真)と館内の震災前のジオラマ展示物(右写真)

名取川を遡って行くと堤防上に素敵なテラスが現れた。かわまちテラス閑上だ。ここは飲食店などが並ぶ商業施設で、オープンテラスで名取川を眺めながらビールが飲みたかったが我慢して通り過ぎた。東日本大震災による津波被害を受けたところだが、閑上地区も災害の跡が見られない。復興していることが感じられ、うれしかった。

10:07 閑上大橋

10:16 橋を渡り終えてサイクリングロードを歩く。やがて貞山堀に沿って行く。

貞山堀は伊達政宗に由来し、阿武隈川から松島湾までの総延長約49kmの日本最長の水路で、江戸時代から川船による物資輸送を目的に掘られたもの。新田開発のための湿地の排水路でもあった。実際に歩いてみて、水路の多いのに悩まされた。

10:32 海岸公園 サイクリングロードは貞山堀沿いに整備され、気持ちよく歩けた。



貞山堀沿いのサイクリングロード
堀の右側が太平洋

11:14 堀を渡る橋が通行止めとなっていて海岸へ出られない。このままサイクリングロードを歩く。

12:15 仙台市立荒浜小学校到着 見学



荒浜小学校

東日本大震災の津波は校舎2階まで襲ったが、児童・教職員は4階に避難して全員無事だった。当時そのままの姿で保存されている。

12:30 車を運転して日和山公園へ向かう。

12:50 日和山公園に到着して歩行組を待った。（泰一記）

【震災遺構仙台市立荒浜小学校～日和山 8.5km 歩行者:弥生、蔵田】

9:30 名取トレイルセンターから荒浜小学校に。弥生にとっては、思い出の地である。3.11 東日本大震災の後、津波で全てを失った荒浜の地の方々に、これからどうするかについてない知恵を絞りつつ、その地の方と話しあったところである。なんとか、再生できないかが彼らの希望だったが、津波の恐れのあるところは、居住を許さないという国の方針に結局は従わざるを得なかった。噛めばたくさんの思いはあるが、あまりの変わりように声も出なかった。これで良いのか、何が復興なのか、ここで住んでいらした方にとっての人生は、と、言葉には尽くせない思いを胸に、浜に出た。残された防潮林雄松が少し防潮堤の手前にある。またまた防潮堤の上を歩く。ここは広い浜で、海水浴場もあったが、今は「海水浴場ではありません」という看板が虚しく立っている。



慰霊の塔



住宅基礎跡

堤防から見える景色は浜に恵まれ、釣りをする人サーフィンをする人もいて、町場に近くなると、砂浜を歩く人、バイクで走る人も散見され、町場の近いことが伺われた。

11:23 防潮堤からも工場、ガスタンクあるいはビルが見えてきて、七北田川の河口につく。荒浜も仙台市若林区であるが、ここまできると、市内工場地域という感じである。対岸に蒲生干潟があり、当面の目的地だが、この川を渡る橋はずっと内陸で、ちょっと時間がかかりそう、との感じ。



七北田川河口にて

11:34 堤防上で、一休み・

11:45 堤防から降り、また国道に登り、七北田川を渡る。そして、またまた工場脇の堤防の上を歩く。途中から降り、堤防横を歩いていると、泰一の車が通っていく。

12:47 蒲生地蔵尊碑、地蔵尊がある。東日本大震災では壊滅的な被害を受け、集団移転や区画整理事業を新たに行なったとある。この地蔵尊は一時、この地から移され、七年後に NPO により戻された、とある。蒲生地区に合掌。



13:00 堤防に沿って、日和山駐車場に到着。

車で到着していた泰一と蒲生干潟を眺め、日本一低い山、日和山に登山。



蒲生干潟



日和山山頂にて

【日和山～夢メッセみやぎ 4km 歩行者:泰一】

13:10 日和山駐車場から泰一が歩行を開始。

13:25 養殖池を通過

仙台港に近い。倉庫・工場が立ち並び、大型トラックが走り回っている。さすがに仙台は大都市だと実感した。

14:00 県道 10 号へ出て、麒麟ビール仙台工場の前を通る。

14:15 仙台港国際ビジネスサポートセンター(夢メッセみやぎ)到着。車組と合流し、ここの食堂で昼食とした。



蒲生養殖池

東日本対震災前はコイやギンザケの養殖が盛んで三陸や福島の漁業者に出荷されていたが、震災により内陸部の養殖池に移転したそうです。

昼食終了後、泰一は車で多賀城市大代にあるローソン多賀城店へ移動。 (泰一記)

【夢メッセみやぎ～ローソン多賀城店 5km 歩行者:弥生、蔵田】

15:00 夢メッセみやぎを、海岸に向けて出発。仙台港には立ち寄らずに、港に沿った道を歩き、港が北に掘り込まれているのに沿って進む。さらに北東に曲がり、県道 23 号を自衛隊多賀城駐屯地を左に見て少し進んだ後、県道から別れ、東に進路を取る。住宅地を抜け、県道 23 号と合わさるとローソンが見える。

16:45 ローソン着。

【ローソン多賀城大代店～菖蒲田浜海浜公園駐車場 3.5km 歩行者:泰一】

15:30 泰一はローソン多賀城大代店に駐車して歩行を開始。県道 58 号から公園内の道を歩く。

15:50 湊浜緑地公園では薬師堂、横穴墓群、日本武命が蝦夷征伐の時に発見したと伝えられる冷鉱泉などを見物した。薬師堂(拝殿)は江戸時代中期の建造物、薬師坐像はまがいぶつ、平安時代後期から鎌倉時代初期のものと考えられている。

16:07 松ヶ浜 七ヶ浜町には七つの浜がある。その最初の浜に出た。小さな漁港

16:35 菖蒲田浜漁港 震災モニュメント 夕陽が沈み、黄昏の親子像がきれいでした。

16:50 菖蒲田浜海浜公園駐車場 暗くなってきたのと疲れ果てたため、今日の歩行はここまでとし、表浜公園の車をこちらへ呼んだ。

17:00 車と合流し、宿へ (泰一記)



薬師堂



松ヶ浦の海岸



菖蒲田浜の親子像



菖蒲田浜海浜公園駐車場

4日目(最終日)

8:40 菖蒲田浜で弥生を降ろして、車班(泰一・蔵田)は花淵浜(表浜)駐車場へ向かった。

【菖蒲田浜～花淵浜(表浜)駐車場 1.5km 歩行者:弥生】

08:45 菖蒲田浜の駐車場に降りる。目の前が防潮堤。防潮堤に登り、海側を見ると、漁港である、そして、防潮堤を歩き始めて5分。浜に出る。内陸側には、なんと高台が造成されたのだと思う、首都圏郊外の住宅団地の如く、家々が海の方に向かって立ち並ぶ。津波後の、高台移転の結果を宮城で初めての光景である。菖蒲田浜には穏やかな弓状になった浜がある。いわゆる風光明媚なところで、人の出も多い。浜には、東日本大震災伝承版が立っていた。このあたり一帯、人口が密集していたことを示す写真を見ることができる。ゆっくりと進むと、巨大な石の崖が海に面して、いく手を阻んでいる。



菖蒲田浜漁港



高台移転した住宅



菖蒲田浜



行く手を阻む断崖

9:10 仕方なく、内陸の方に向けて足を運ぶ。サーフィンのクラブがあるらしい。すぐに県道 58 号線にぶつかり、花淵地区に向かう。峠道を登ると、平坦なところに出る。少し行ったところに、表浜の標識が見える。

9:20 右に折れる。田んぼの中の小道、とはいうものの車が通れる道を海に向かうと、駐車場が見える。

9:28 すぐにマイカーが目飛び込む。昨夜、表浜の駐車場に行った時には、真っ暗で、この駐車場が全く見えず、そこを通り過ぎ、右折し、鉄の門の前に出て引き返した。太陽の下では、立派な駐車場で、道の反対側には立派なトイレも。なんと、なんとびっくり。

自動車が、続々と、というのはちょっとオーバーだが、入ってくる。皆、サーファーである。浜は、はるか下に見える。先の菖蒲田浜とは全く異なる風景である。ここからは、車で多聞山に向かう。(弥生記)

【花渚浜(表浜)駐車場～多聞山駐車場 4km 歩行者:泰一、蔵田】

9:00 泰一・蔵田は車を表浜駐車場に停めて歩行を開始した。やがて県道 58 号へ出る。

9:30 吉田浜 向こうに松島の海岸線が見える美しい浜、吉田浜貝塚の柱

10:00 東北電力仙台火力発電所前 ここも東日本大地震の被害を受けた。津波の到達点に大銀杏があり、津波浸水区域の看板がある。

10:20 多聞山駐車場到着
多聞山展望広場公園を散策。

10:40 車で港公園へ向かう (泰一記)



表浜



眺洋台からの松島湾



吉田浜

【多聞山駐車場到着～みなと公園 6km 歩行者:弥生】

10:00 多聞山を下る。58号線に右折し、ただ58号線をいくのもつまらないと思い、代ヶ崎漁港を目指して海の方に右折する。急な下り道を下りていくと人家が見え、漁港につく。一見して、来た道を登り、58号線へ。

10:35 石乃柏家から58号を離れ、右折する。その道をまた右折して、東宮浜へ。工場が多く、途中で引き返す。先程の道を行くと、また58号に交わり、交通量が多い中、橋を渡る。

11:15 渡った左側は貞山公園が川の上流に向けて広がる。こちらは、川下の方に右折し、川沿いを歩く。google マップを片手に、さてどこが目的地かと探しながら県道23号線を歩く。県道11号に右折し、中洲なのか、埋立地なのか、いずれかの島に橋を渡って県立みなと公園の管理事務所を目指す。工場脇を通り、直角に曲がると、車が道ばたに駐車しているのが見えた。

11:30 なんとか会えたというのが実感。公園の中は紅葉。

11:40 車で食堂を探し、イオンに入った。

食事後車でみなと公園へ戻った。歩行組を降ろして弥生は車で塩釜海の駅へ移動。

(弥生記)



みなと公園

【みなと公園～塩釜海の駅 4.2km 歩行者:泰一、蔵田】

12:45 泰一・蔵田が歩行開始

県道 11 号を歩く。

13:00 運河に掛かる橋を渡る。倉庫街を通り過ぎ、港町公園を通り塩釜港をグルーっと回る。

14:00 塩釜市海の駅到着

駐車場で車を回収し、馬の背へ向かう。

14:25 馬の背駐車場到着 馬の背観光

馬の背は波の浸食により海に突き出た棧橋のようなところ。細い所で幅が数メートルほどしかなく、歩くのに少し緊張した。先端まで行くと松島の美しい島々が眺められた。 (泰一記)



塩釜市貞山通



塩釜市「海の駅」にて



松島馬の背へ向かう



馬の背

【塩釜海の駅～馬の背駐車場 4.3km 歩行者:弥生】

12:50 塩釜海の駅駐車場を出発(同駐車場は有料だった)。

うっかりと、直接、県道 45 号線に入るべく北上した。しばらくして、「あっ、海岸線を行く道でなけ

れば」と思い返し、来た道に戻り、海岸線を目指す。港を行くと、釣りをしている人がいる。駐車をしている人もいて、「しまった」ここに入れれば良かったと、後悔する。北上する海岸線の防波堤は割と低く、海が見える。当初目的地としていた海鮮せんべい塩釜に出た。店もあるが、煎餅工場だった。そこから、リアス式海岸のため、海岸線に出たり入ったりしながら、一応、一周した。



塩釜港新浜埠頭



海鮮せんべい塩釜からの眺め

13:50 県道 45 号線を行き交う自動車に小さくなってひたすら歩く。海を見ながらの道である。

14:18 トンネルにぶつかる。歩行者用には別のトンネルが海側にあることを、帰りの車で聞かされ、びっくり。二つ目のトンネルの中は歩道が別になっておらず、ちょっと怖かった。

14:30 トンネルを出てしばらく歩くと、道路を渡ったところに浜田漁港に入る道があり、漁港に入る。漁港を通り、「馬の背」へ行く道に行く手を取る。多分観光に来たのであろう車に何台かあうが、いわば峠道と言えるような感じで、時折松島の海と島が木々の合間から見える。



トンネルに行く



浜田漁港

14:40 馬の背に到着。馬の背駐車場から海岸線まで行って戻ってきた 2 人に会う。
私は 1 人で、海岸線まで降りて行って、戻ってくる。

【馬の背駐車場～松島海岸駅 4km 歩行者:泰一】

14:50 泰一がゴールの松島海岸駅へ向かって歩き出す。弥生と蔵田は車で松島海岸駅へ。

県道 45 号を歩く。ところどころ松島の風景がみられた。

15:54 松島海岸駅到着 結構急いで歩いたつもりでいたが、既に蔵田さんは列車で帰ってしまった後だった。とにかく計画通り歩けたことを良しとした。（泰一記）



馬の背からの松島湾

県道 45 号から「松島や ああ松島や……」の眺め



松島海岸駅にゴール

感想

歩行を終えて、計画したコースをスケジュールどおりに歩けたことに安堵しました。車をバトン代わりに使って一番苦勞するのは、駐車する場所です。前回と異なり、今回は海岸沿いに公園が整備され、駐車場の位置も Google マップで事前に中継地点を決められたので、全く問題ありませんでした。他方で、施設の休館日について、事前に調べていなかったのが失敗でした。そのため、見学できなかった所が一カ所あり、残念でした。

今回の歩行地域は、亶理市や名取市など東日本大震災による甚大な津波被害を受けた地域で、住宅地は高台移転し、海岸線の内側の防潮堤から内陸部にかけて、防災林を含む広大な公園として整備されています。高台移転を含め、インフラとしては復興したと言えそうです。この点が福島の浜通りと大きく違うところで、原発事故の悲惨さを改めて考えさせられました。(泰一)

新地町から松島までの歩行区間で、東北太平洋岸の様々な姿を見ることができた。以前、仙台市荒浜あたりから新地町を通り南相馬までが、一つの商圈だと聞かされた。歩いてみて、福島県新地町が仙台に顔を向けているかどうかは、わからなかった。わかったことは、亶理あたりから仙台に向けて景色が街の様相を呈してきたことだった。

ところで、宮城県に入ると、避難丘が海岸線に沿って並び、大変興味深かった。津波被害の教訓としての「遺跡」のような感じだった。果たして、21 世紀後半、人々はこれらの丘をどのように維持するのだろうか。そして、歩く道すがら、仙台港を垣間見た時に、「伊達政宗の遣欧使節が仙台港ではなく、石巻から出港したのだろうか」、そんな疑問が脳裏をよぎった。(弥生)

私でも歩けるコースを設定いただきありがたかったです。

防潮堤の上を歩くコースは、海岸線歩行としては、良いコースですが、大震災の結果だと思うと、申し訳ない気がしました。(蔵田)

以上